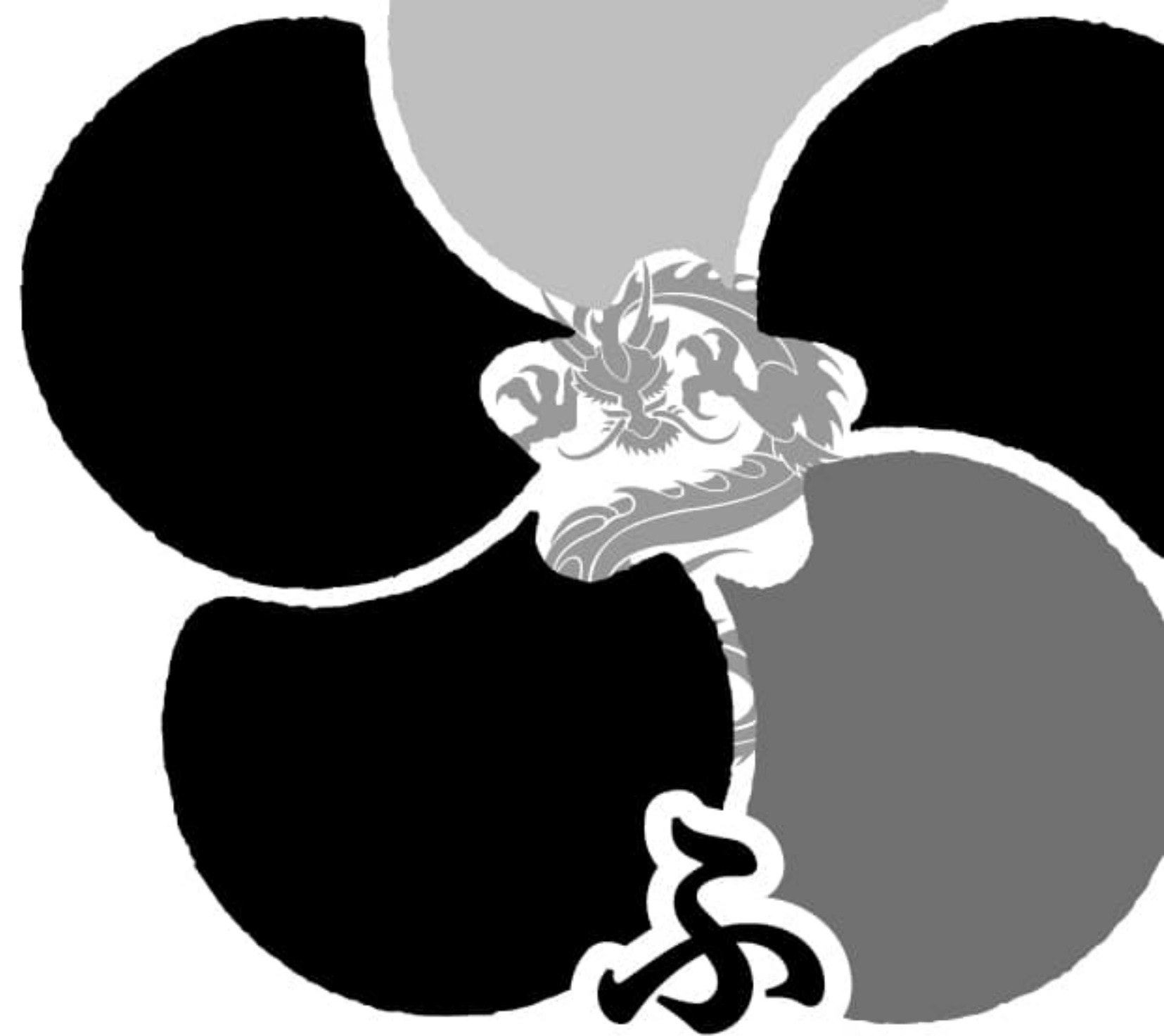




ふくしま未来神楽

第七番 呆然漠然巨人

作品に寄せて

和合亮一

幼い頃に、福島市の中心部にある信夫三山を作ったとされる、大男の伝説を聞きました。いつしか信夫山を見あげると、「大徳坊」と呼ばれるその巨人の影が、いつも見えるような気がしました。それを中心に据えて、何かを書いてみたいと思ってきました。

大きな男には主に二つの影を重ねています。

一つは震災で失われた一つひとつの尊い命です。

それぞれの命の意味ははかりしれないほどに大きい。かけがえのない記憶の影を受け止めたい。このことへの想いは、失われた命と歳月とを受け継いで、今を生きていきたい私たちの影とも静かに重なってきます。

もう一つは暮らしを、新しい街を作ろうとして生きる私たちそのものの姿です。

震災から七年。伝説の中で大男がこの地を大いなる力で創造したかのように…、私たちにもまた力を出し合う時が来ています。未来ある人々に、迷わない福島人の大きな背中をみせたい。そして子どもや若者の心の中の新しい希望が、眼の前の歳月に鏡のようにそこに映し出されていくことを願っています。

大男伝説がずっと私たちに伝わっていること。震災後の福島を共に生きていくこと。何かを守るために、分かち合うために、夏のお社に集まること…。様々な意味をめぐらせながら、私たちの故郷を、それぞれの心の中の「大徳坊」と共に、手を握り合いながら作っていきましょう。